

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

日本の夏は……

梅雨の季節はあつという間に過ぎ去ってしまいましたね。雨の日は「6月ってこんなに寒かったつけ」と言っていたのが関東地方が歴代最速で梅雨明けした途端「6月なのにこんなに暑いのか？」。夏空を見上げてみるとなんだかわくわくしてしまうのは、子供の時の夏休みの記憶でしょうか。庭木の剪定作業の合間に飲む冷たい麦茶の美味しいこと。ああ日本の夏が来た：という感じがします。

日本の夏と言えば、盂蘭盆会。ご先祖様を無事にお迎えして、心の内から爽やかな夏を過ごして参りましょう。

お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。



- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌・香炉・燭台・花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子（みずのこ）」、碗に清水を満した「閻伽水（あかみず）」を供える
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そうめん、果物など夏の食物を供えてください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！

法話のコーナー

「当処すなわち蓮華国」

「駿河には過ぎたる者が二つあり富士の御山に原の白隠」と謳われた江戸時代の名僧白隠慧鶴禅師。臨済宗中興の祖と言われる500年間においてこれ以上の人は居ないと言われる偉大な和尚さんです。近年慶賛の動きが活発になって、白隠の素晴らしさが改めて見直されています。生誕地である静岡県沼津市には記念碑と生誕井戸が整備され人気の観光地となっているようです。ボクがお参りしたときはまだ工事中でしたが……白隠禅師は京都の大本山の住職になるわけではなく常に一般大衆と共に生き、人々の中にあつて禅の教えを説き続けた方です。その白隠慧鶴が書いた「坐禅和讃」には

坐禅和讃22行44句のうち、最後の部分をご紹介します。最後部分をご紹介します。

三昧無碍の空ひろく
四智円明の月さえん

此時何をか求むべき
寂滅現前するゆゑに

当処即ち蓮華国
此身即ち仏なり

（本当の心は無限の広さをもつものだ
そこに仏の御教えが月のように輝いている
この上なを望むのか
心静かに生きるのみ
こここそすなわち蓮華国
私こそその仏だぞ）

蓮華国、というのは蓮華の花咲く美しい国、すなわち極楽浄土のことであります。そして、当処の「処」は、この場所、という意味ではありませんが、単なる場所をさす言葉ではない。当処すなわち蓮華国という言葉は、極楽世界の場所だ

土でなければ仏教なんて意味が無い」当処すなわち蓮華国、私たちが生きている、毎日の生活こそが、本当は極楽浄土でなければならぬ、ということです。とはいえ、毎日幸せに悩みなく生きている人なんていないはずですよ。ニュースを見れば、薬物、殺人、暴力事件、不倫。今も世界のどこかで戦争が行われている。皆が苦しみを抱えながら生きている、この世のなかに極楽世界の姿に変えることができるのでしょうか。

苦しみの苦、という言葉、元を正すと「自分の思い通りにならないこと」を指す言葉だそうなんです。自分の思った通りにならないから、頭に来る、悔しくなる悲しくなる、苦しくなるんです。人が生きていく以上、思い通りにならないという苦しみはどこへ行っても必ずつきまとい、とても逃げ切れないものじゃない、そこでお釈迦様はこうおっしゃった。「苦を見つめ、苦を考えよ」じつは白隠禅師も我々と同じように大きな苦しみの中に生きて来られました。そして仏法に出会い、苦を見つめ苦を考える、人生の苦しみから逃れ得ぬ私が、どうしたら幸せになれるか。それが白隠禅師の仏道修行のスタートでした。

最初の四年間は、大乗寺普益息道禅師の元で見習い、19歳になり、清水神業寺に移って本物の修行僧雲水となりました。ところがなかなか修行生活は順調とは行かなかった。「巖頭和尚という人は、盗賊にとらえられて首をはねられてあつてなく死んだそう。禅の修行などくだらないものだ」そう思い一度は修行をやめてしまわれた。つまり落ちこぼれたのです。さあ山を下りよう、と、なかなか踏ん切り付かずもう少しもう少しと坐禅している内に思い直した。悟りの極意を得た大禅僧であつても死ぬときは死ぬ、これは避けられぬ苦しみだ。しかし死を目前にしても、その恐怖すら素直に受け入れて、悟りの境界を示した巖頭和尚のその死に様、その腹の据わりようはなんと素晴らしいものだろうか。そうか仏法の総府たる禅の真の目的は、己の生き方を見つめ己自身を見つめ、この身のままで極楽安心の世界に生きることだ。魔は念より生ず、地獄への恐怖も、ままたらぬ毎日に對する不満も、憎しみも悲しみも、みな出所は私の心の中に他ならない、自分の心が変わりさえすれば、この世は極楽になるのだ。ついにそう気づく、24歳の大きな悟りの境地であります。これからさらに修行を重ね、250年経っても尊敬される大和尚になったのであります。

次号につづく

墨跡 紹介

墨跡（ぼくせき）とは禅の師匠が悟りの境涯を禅語や詩文に込めたためる書のことです。宝泉寺にあるいくつかをご紹介していきます。

今回の一枚は、私の法話のお師匠、濱田徹道老師「本来無一物」です。

濱田老師は広島県三原市に生まれ、在家から出家し、厳しいことで有名な大本山仏通寺管長藤井虎山老師の法を嗣いだお方です。僧堂の師家（指導者）から縁あって布教師の道に進み、平成17年に布教師会会長、当時研修生だった私は、「布教法話の師はこの人しかない」と思いました。この言葉は禅の神髄を表した言葉です。いついかなる時代であっても禅の本来の価値は変わらないぞ、と戒めてくれていた気がするのです。ずっと大切に身近に置いておいたので、まだ表装（掛軸にすること）してないんです。



本来 無一物
関照頭陀 印印（頭陀は一修行僧を表す）

{た} あいうえお用語辞典 （托鉢たくはつ）

仏教修行者は他者から支援を受け、生活の糧とします。その支援の施しを受けるため、街を歩いて廻るのが托鉢行。「王法」

と声を張り上げながら、草鞋履で一刻半。差し出す方も受ける方も黙って合掌。一切の付度を超え、さすがらしい一瞬です。

今年の一枚

小平市にある彫刻家「平櫛田中記念館」に現存する彫刻材料に保管されていた巨木。臨済禅の薫陶を受けて育った平櫛は常に「今日只今」の生き方を貫き107歳で亡くなるまで精力的に創作に打ち込みました。彫刻材としては30年分に相当するこの巨木を100歳を超えてから入手した平櫛の座右は「わしがやらねば誰がやる」。私は「転生」と「鳥有先生」という作品に衝撃を受けました。



我が輩はニヤンである



我が輩はニヤンである。夏毛に変わる季節、抜け毛が気になる我が輩である。あまり抜けるので本堂並びに客殿への立ち入りを禁止されてしまった。涼しくて好きな場所なのに残念である。このところ太りすぎなので外の散歩を強化しよう。皆さんおなかをなでてください。

お知らせ

この「宝泉寺報」は、霊園使用者の方、檀信徒の方々にお配りしておりますが、最近、親戚や、子供の家にも送ってほしいというご要望がありました。そこで、ご希望があれば各家のお施主さん以外の方にもお送りしたいと思います。送ってあげたい人の名前、住所、ご自身との関係（子、孫、友人など）を添えて、HP、メール、FAX、お手紙などでご連絡ください。

千九三〇九四四

東京都八王子市館町三四四

宝泉寺

TEL FAX 〇四二（六六）三三三三
info@housenji.net

住所変更、名義変更のお願い

墓地の継承をお考えの方、またお引越しなどの住所の変更、また郵便物の郵送先を変更したい方は必ず管理事務所に一報ください。大切なお知らせが届かないことがあります。よろしく願いいたします。

平成三十年度 年忌法要表	
年忌	没年度
一周忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
二十三回忌	平成八年
二十五回忌	平成六年
二十七回忌	平成四年
三十三回忌	昭和六十一年
五十回忌	昭和四十四年

お位牌に書かれた没年月日を確認してみてください。亡き人への報恩と自己を見つめ直す良い機会です。すすんで法要を行いましょう。

霊園管理事務所から 霊園だより

梅雨に終わり途端に暑い日々になりました。いかがお過ごしでしょうか。もうすぐお盆がやって参ります。お花・お線香をご用意して皆様の墓参をお待ち申し上げております。是非ご利用ください。また墓参寺に気になった外柵のズレや目地の欠けなどの修理、落ちにくい水垢掃除、墓地工事などありましたら管理事務所に問い合わせてください。もちろんお見積もりだけでも結構ですのでお気軽にどうぞ。

畑山

オススメ図書

「生と死の
「ミヤコガ」

実は山岳小説が大好きな私。この本は小説ではありませんが、小説より遙かに壮絶な体験をした著者の、極限の筆致が心を突き刺します。チベットのそびえるミヤコガ峰、自分以外の登頂隊全員が、一本のザイルに結ばれて滑落してゆく。高山では遺体の回収もままならず、その後の人生を遺骨の回収と遺族への謝罪に生きた著者が最後に行き着いた言葉が「生きていくことは、ただそれだけで幸せなのだ」山と溪谷社、1700円。

